３年部学年通信

努力の轍

吉原工業高校

第 19 号

2022/9

「あなたはどんな人ですか。」

あなたはこの質問に、答えられるでしょうか。

今、就職試験や入学試験に向けて面接練習をしている人が多いかと思います。面接で聞かれることはあなた自身のことです。志望理由、長所・短所、高校生活で頑張ったこと、趣味、自己アピールなど、面接で聞かれる定番の質問は、あなた自身のことを話せばよいだけなのです。あなた自身のことはあなたが一番知っているわけですから、本来答えることは簡単なはずです。しかし面接練習をすると、うまく答えられないと感じることが多いはずです。なぜでしょうか。

あなたは自分自身についてどの程度考えたことがありますか。何が好きで、何が嫌いで、何を頑張り、どのように成長して、どのような人間になったのか。考えたことはありますか。面接で様々な質問に答えられない人の多くは、自分という人間について具体的に考えた経験が少ないのではないかと思います。自分がどのような人間なのか客観的に考えると、面接で聞かれるような質問に対する答は思いつくはずです。あとはそれを言語化するだけなのです。だから、まずは自分という人間についてしっかりと考える必要がありますね。

「自分という人間についてしっかりと考える必要がある」と記しましたが、そのコツを述べたいと思います。それは、寛大な心で自分を客観視することです。自己評価がとてつもなく高い幸せな人はそんなにはいません。誰もが劣等感を抱えながら生きています。劣等感が先行してしまうと、自分のよい部分を見つけることは難しくなってしまいます。だから、多少やさしめに自己評価をしてみるとよいでしょう。その上で、面接で聞かれるであろう定番の質問の答えを考えてみましょう。

前任校でもよく面接練習をやりました。その中で最も印象に残っている生徒とのやりとりを、以下に示してみます。ちなみにこの生徒、優秀だったのですが、自己肯定感が低い生徒でした。

私　：「長所は何ですか。」

生徒：「（長い沈黙のあと）・・・・・・、分かりません。」

私　：「あのさー、長所とか自分のことを答えればいいんだから、分からないわけないから。」

生徒：「（急に泣き出し）僕には長所はありません。」

私　：「（激怒しながら）長所のない人間なんてこの世にいるわけねーだろ！大変な思いをしながら高校で3年間頑張って、お前なんか長所だらけじゃねーか！」

生徒：「（号泣しながら）だけど僕には長所を言えるだけの自信がないんです。」

私　：「（更に激怒しながら）だったら今からお前のいいとこすべて言ってやる！しっかり聞け！」

こんな感じで面接練習が修羅場と化しました。その後、その生徒の長所と思われる部分を列挙したところ、また物凄い勢いで泣き始め、これまで誰からも褒められたことがなかっただの、自分は誰からも必要とされていないと思っていただの、長々と泣き言を聞かされました。そのやりとりのあと、その生徒はまるで人間が変わったかのようにポジティブに自己分析をするようになりました。すると、自信満々にどんな質問にも答えられるようになりました。積み重ねたものを信じられるようになったからでしょうね。

最後となりますが、入学直後から伝えてきたとおり、「自分を支えるものは過去の自分の努力だけ」です。高校生活で努力したと感じている人、ぜひ自信を持ってください。努力できていない人、残された時間はわずかですが、何もしないよりはましです。もがいてください。進路決定が目の前に迫っている今、未来の自分のために日々戦わなければなりません。結果がどうなるかは別です。今自分にできるベストを尽くしてください。期待しています。（学年主任　植松　和也）